










■平成 22 年度 第三期 (9/6~9/17) インターンシップ技術講習生の受入れ

技術講習生のプロフィール	技術講習で体験したこと、感じたこと	今後の抱負など
<p>①長谷川理恵 宇都宮大学 農学部 農業環境工学科 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・モルタル試験、水理実験補助、プログラミング ・モルタル中の空気量の変化が、固化時間、せん断力、施工性に与える影響などについて実験し、コンクリートのもつ性質の奥深さを学んだ。 ・研究者が行う実験はシビアで、地道な測定を繰り返すとても根気のいる職業と感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な実験補助を通じて、研究実験は精神的に強くななくては務まらない、研究対象物には愛情が必要、仮説の検証には研究職ならではの醍醐味があるなど、様々なことが印象に残った。この経験を次のステップに活かしていきたい。
<p>②舟川彩乃 新潟大学 農学部 生産環境科学科 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(同上) ・移転推進室が受入れ窓口だったので様々な作業が体験でき勉強になり、また、視野が広がったような気がする。 ・大学の授業内容が現場でどのように活かってくるのかを知ることができた。 ・研究職の厳しさとやりがいを感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のおもしろさを感じたので卒業論文の研究に取り組むことが楽しみになってきた。 ・インターンシップで学んだことと感じたことをこれからの大学生活に活かしていきたい。
<p>③池田真樹 九州大学 農学部 生物資源環境学科 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(同上) ・いままで興味が向かなかったモルタル試験作業を実施してみると、新しいことへの挑戦から得られる体験と知識がとても新鮮で充実感を味わえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究職を就業体験するために農工研を希望した。この分野はフィールドワークを基礎としており、研究対象のの広がりを実感できた。 ・インターンシップの経験と研究職員からいただいた助言を忘れず、一人前の技術者か研究者になれるよう努力していきたい。
<p>④生沼晶子 宇都宮大学 農学部 農業環境工学科 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・LCG 算定ソフトを使用し、膨大な維持管理データが長期的にどのような意味を持つかを推測・試行する作業に携わった。 ・農村工学の分野だけでなく、経済学などの知識も動員する必要があり、応用科学を進めるためには柔軟性と探求心も必要と感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶことの延長線上に研究という職業があるということを感じることができた。研究という実学と応用科学に満ちた世界で働くためには、大学で基礎をみっちり学ぶことの重要性も感じた。 ・進路を尋ねられ、自問自答するうちに、将来の自分の姿を具体的に考える気持ちが芽生えてきた。
<p>⑤豊崎郁子 茨城大学 農学部 地域環境科学科 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(同上) ・ソフトの扱いに戸惑いつつも、データの分析を重ねるうちに、解析の意味が理解できるようになった。 ・頭首工を初めて訪れ、水位の跡や生態系とのつながりを間近に見て、農学と工学の一体性を実感した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験からいろいろ学ぶことが多かった。また、同期の実習生から多くの刺激を受け、これから勉学に向かうに当たり一層の励みになりそうです。

<p>⑥工藤将志 宇都宮大学 農学部 農業環境工学科 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・水理実験の補助と解析、現地調査に携わった。 ・農業水利施設にふれて興味が湧き、現場への関心が高まった。また、水理実験補助作業を通じて、水理学が農業水利施設の機能の発揮にどのように活かされているかを学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川環境に興味があり、水文学や生態学に関心が向いていた。研究者の話を聞き、現場を見る機会を通じて、自分の関心事項は、農業水利施設の役割や管理方法を考えることによって社会とつながると考えるようになった。自分の興味に改めて目を向けて深く考える機会となり、充実したインターンシップだった。
<p>⑦小澤由季 日本大学 生物資源科学部 生物環境工学科 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(同上) ・水理学の基礎をしっかりと教えていただいた。 ・現場の技術者が農工研の技術研修を受講している姿を見て、社会に出てからも学びは必要であり、仕事に必要な知識や技術を自ら進んで習得していくことが必要ということを改めて思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの期間中に、職員の方々や同期の実習生との会話を通じて、私はもっといろんなことに目を向けて、たくさんの人と関わりをもつことが必要なのではないかと考えるようになった。 ・なりたい自分に一歩ずつ近づけるように努力を続けていきたい。
<p>⑧N. Y 宇都宮大学 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地中レーダーを使った室内及び屋外実験の補助と、GPSとレーダーを連携させる地中探査実験の補助に携わった。 ・測定と解析、結果から考察という思考作業はとても楽しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップのおかげで、狭かった自分の視野が広がったような気持ちです。 ・座学だけではない、体験して学んだことが自分にとって大きな収穫になりました。この経験を、今後に役立てていきたいです。
<p>⑨西田由布子 明治大学 農学部 農学科 3年</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(同上) ・地中レーダーやGPS測量は自分にとって初めての知識と経験であり、始めは理解が及ばず困惑しました。研究者から毎日話を聞き、打ち込んで実験を行っていくうちに、少しずつ知識を吸収している自分に気づいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のインターンシップは、将来を考える上で、私にとってとても大きな2週間でした。 ・今回の経験を、今後の人生に最大限に活かしていきたい。